

令和4年度
ライブラリー講演会

放送大学教授等による講演会を開催します。各分野の最新の話題を聞くことができるまたとない機会です。ぜひ御参加ください。

期 日	テ ー マ	講 師	会 場	内 容
4月16日 (土)	近世城下町としての水戸 の成り立ちとその変化 —武家地を中心に—	放送大学茨城学習センター所長 茨城大学名誉教授 オノデラ アツシ 小野寺 淳	茨城県立図書館 視聴覚ホール	水戸城は平安末期から鎌倉初期に常陸大掾馬場氏が築いたと想定されている。上杉謙正の乱を機に馬場氏から江戸氏が1427年に城主となり、小田原征伐を機に1594年には佐竹氏の居城となった。佐竹氏の出羽転封後は徳川家康の子が次々に配されたが、1609年に徳川頼房が就封されると水戸城下の町づくりが行われる。水戸城下の成り立ちと幕末までの変化を、地図史料をもとに武家地と武士の移動を中心に考察する。
5月21日 (土)	神道の形成	茨城大学人文社会科学部教授 イトウ サトシ 伊藤 聡	茨城県立図書館 視聴覚ホール	神道という、太古から変わることなく続いてきた日本固有の信仰で、自然と融化した日本人の心を体現するものと理解されることが多い。しかし、今日「神道」といわれているものは、歴史のなかで仏教や儒教などの外来思想・信仰の影響を受けているという変化しながら、今日の姿になったのである。本講演ではその形成の過程を辿っていききたい。
6月18日 (土)	データ駆動型社会のはなし	放送大学茨城学習センター客員教授 茨城大学理工学研究科教授 ハブチ ヒロマサ 羽濑 裕真	茨城県立図書館 視聴覚ホール	情報通信ネットワーク技術が進展し、様々なオンラインサービスやネットを使った家電制御などが行われようになってきました。そのため、大量で多種類のデータがネット上を流れるようになり、そのデータを解析し活用することによって生活上の利便性やサービスの深化、仕事改革などを考えられるようになってきています。データ駆動型社会のはじめです。今回は、導入して、ネット事情、データ事情、将来の私たちのちについてお話しします。
8月20日 (土)	水戸の香道	放送大学茨城学習センター客員教授 茨城キリスト教大学文学部教授 ホリグチ サトル 堀口 悟	茨城県立図書館 視聴覚ホール	水戸藩初代藩主頼房公は、独自の香道手引き書を作成して、後水尾上皇に献上した。当時は、京都貴族に対して板東武士の教養はまだまだ低く見られていた。そんなときに、水戸という一地方から、香道という高度な香り文化の教科書を、京都文化の頂点に立てられた後水尾上皇に献じたという事実は、水戸の香文化が高かった事を示すだろう。その後、頼房公の香統は二代光圀公に受け継がれ、幕末に至るまで水戸の香統が続いてゆく。この、一般には知られざる地方文化の姿を、水戸の地で講演させて頂きたいと思う。
9月17日 (土)	北畠親房と常陸国	放送大学教授(人間と文化コース) 放送大学附属図書館長 東京大学名誉教授 コンドウ シゲカズ 近藤 成一	茨城県立図書館 視聴覚ホール	北畠親房(1293-1354)は南北朝時代に南朝を支えた廷臣ですが、1338年から43年にかけての5年間、常陸国内を滞在して東国の武士を南朝の味方につける工作を行ないました。『神皇正統記』を著したのもその間のことです。親房が遺した書状等を読み解きながら、親房の思想と行動を考えてみたいと思います。
10月15日 (土)	近世の百姓と印	放送大学茨城学習センター客員教授 茨城大学教育学部教授 チバ マユミ 千葉 真由美	茨城県立図書館 視聴覚ホール	近世は百姓や町人などの民衆においても、印の所持と使用が一般化した時代です。文書社会ともよばれる近世で、人々は印を自分自身の存在証明と考え、また自らの意思を示す重要なものとして、印を通じて強い主張をするようになっていきます。リモートワークや非対面活動が広がる中で、押印のあり方も問われている現在、改めて「はんこ」の意義について、近世の村と百姓のすがたから考えていきたいと思います。
11月19日 (土)	藤沢周平と外国文学	宇都宮大学名誉教授 クジライ ユウジ 鯨井 佑士	茨城県立図書館 視聴覚ホール	藤沢周平は時代小説の作家であることから、一般的には純日本的な作家と考えられています。しかし、彼の文学の原点はむしろ外国文学にあります。このことは、彼自身がエッセイなどで明言しているにもかかわらずあまり認識されておりません。彼が影響を受けた作品の中からカロッサの「ルーマニア日記」とダビの「北ホテル」を例として取り上げ、この問題についてお話しする予定です。
12月17日 (土)	発達障害児についての 理解を深めましょう	放送大学茨城学習センター客員教授 ミズグチ ススム 水口 進	茨城県立図書館 視聴覚ホール	発達障害児には自閉症スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(LD)が含まれます。視線が合わない。名前を呼んでも振り向かない、言葉がでない(あるいは増えない)、落ち着きがない、こだわりが強い。こうしたことを主訴に来談するのが発達障害児です。発達障害児をどのように理解し、どのようにかわったらいのか。これまでの発達心理臨床経験をふまえてお話しします。
2023年 2月18日 (土)	高齢者虐待 現状と課題	放送大学茨城学習センター客員教授 茨城大学教育学部教授 タキザワ トシユキ 瀧澤 利行	茨城県立図書館 視聴覚ホール	虐待はすべての世代、性別を問わず起こり得ます。社会で注目されているのは児童虐待ですが、お年寄りの虐待も社会に広く、深く広がっています。高齢者の虐待は気づきにくく、また社会的に大きな問題となりにくい傾向があります。高齢者虐待は施設でも在宅でも起りますが、その状況はさまざまです。この講演では、高齢者虐待の状況を知り、高齢者をケアしていくためにはどのような配慮が社会で必要なのかを考えていきたいと思います。
3月11日 (土)	保険法と市民生活 —生命保険と相続を中心に—	放送大学教授(社会と産業コース) リー シン 李 鳴	茨城県立図書館 視聴覚ホール	日本では、世界の9割が何らかの生命保険に加入しており、生命保険は市民生活に浸透しています。しかし、保険が相続とも深い関わりがあることは意外と知らないのではないかと思います。本講演では、①保険金受取人が単に「相続人」と指定された場合の解釈、②遺言による保険金受取人の変更を巡る諸問題、③保険金受取人が被保険者より先に死亡した場合の相続関係について、事例をもって保険法、民法等に基づいて説明します。

※都合により日程・会場・内容等が変更になる場合があります。

時間 14:00 ~ 16:00

会場 茨城県立図書館 視聴覚ホール



主催 放送大学茨城学習センター
お問い合わせ 水戸市文京2-1-1 茨城大学水戸キャンパス内
tel:029-228-0683

茨城県立図書館
水戸市三の丸1-5-38
tel:029-221-5569